

第2回（11月） 会議録（主な意見）

- 公民館で今やっている取組にどうやって持続可能な社会づくりの意味づけをしていくかが大切。伝統文化の継承、健康福祉、ウェルビーイングに関わるところだが、これが、子供達の未来につながる、持続可能な社会につながるということが大事になってくる。

- 取組の持続可能性ということを考えたときに、小学生のときは公民館に行っていたけれど、中学生になるとほぼ行かなくなるという様子が見られる。強制ではないが、中学生をちょっと関わらせる機会があると、周りの子育て世代とか、祖父母世代とも関わりが生まれ、地域の人と人のつながりが生まれてくるのかもしれない。

- 公民館には若い人達が入ってこない。小学生はいろんな活動で来ていたが、中学生がなかなか来てくれないので、校長先生と協力しながら私達は出前公民館を5年間続け、公民館がどんな所なのか一生懸命宣伝した。でも、大人が子供達に何かを与えるばかりではだめで、視点を変え、子供達が主体になっていくようにしなければならないと思った。

- 環境学習として地域に出て、地域の課題を捉えて改善策を考えるっていうのは色々な学校でやっている。学校主体でやっているが、その学びを地域に発信し、子供達が地域に参画するということは素晴らしいこと。将来の地域の担い手になる子供達にとっては、地域での活動は自己肯定感を育むことにつながる。公民館や地域の人、PTA を巻き込んで、いろんな社会教育関係団体と交流できたらいいと思う。

- 各市町で祭りを開催すると上から下まで人とのつながりができる。そこに参加することもつながりなのかなと思う。県内の子供達を集めて、合宿をした際には、金沢大学の学生や地元の青年団の方を集めて実現した。企画のため、知らない人も巻き込むことになった。子供達と触れ合うことが出来たことは、青年団にとって良い経験になるのではないかな。

- 活動を通じて、青年としての充実感とか達成感とか自己肯定感とか、やってよかったというようなところを感じていけるといい。